

藍場浜公園西エリアにおける  
新ホール早期整備プラン（骨子案）

令和6年11月

徳島県

※ 特にご意見いただきたい項目等は波線にしています



## 第1 これまでの取組・現状

### 1 「新ホール整備」検討の経緯

徳島では、四国三郎・吉野川の肥沃な大地で培われた「阿波藍」による経済的繁栄を受けて、「阿波おどり」や「阿波人形浄瑠璃」といった「伝統芸能」が盛んに行われ、また、遍路文化の「お接待の精神」が生んだ「板東俘虜収容所」がアジア初演の地となった「ベートーヴェン・第九」に代表される「クラシック」など多彩な文化芸術が、広く県民の皆様の中に、息づいてきました。

その徳島の特徴的な文化芸術を、県都において支えてきた「徳島市立文化センター」について、「施設の老朽化」や、「多様化する施設利用者のニーズに対応するための機能が十分でない」という住民や文化団体の皆様からの強い要望を受け、文化センターに代わる新しい施設として、規模や機能を充実させた「新ホールの整備」に向けた検討が、平成5年度の「音楽・芸術ホール建設検討市民会議」に始まり、おおよそ四半世紀にかけて行われてきました。

平成27年度には、「文化センター」の利用が中止となり、県都に1000席以上の客席規模の公共ホールがない状況が続く中、令和2年9月に、徳島市が県に対し、新ホール整備の早期実現に向けた緊急要望を行い、これを受けて、「縣市協調未来創造検討会議」が発足しました。

同検討会議においては、これまでの徳島市における「新ホール整備」に向けた様々な検討の成果を基本として、「旧文化センター跡地」における新ホール整備の検討を行い、令和2年12月に、新ホール整備の大きな方向性としてまとめた「縣市協調新ホール整備基本方針」を策定し、さらに、令和3年3月に、基本方針の内容の具体化を図った「縣市協調新ホール整備基本計画」を策定しました。

その後、新ホール整備については、徳島県が主管となって、「設計・施工一括発注方式」により、公募プロポーザルを実施し、令和3年度から令和5年度にかけて、「基本設計」、「実施設計」を進めてきました。

一方で、建設資材価格や工事人件費の高騰が続く情勢下において、令和5年5月から、新ホール整備の見直しに向けた検討を開始し、同年11月に、新ホールの建設地を変更し、「藍場浜公園西エリア」を候補地とする構想を表明しました。

令和6年2月から6月にかけては、「新ホール整備候補地調査業務」を実施し、調査モデルプランにより、「藍場浜公園西エリア」における新ホールの施設規模や機能等の具体化を図り、また、7月から8月にかけて、興行関係者、公立文化ホール施設等に対しヒアリングを実施して、1500席規模のホールで可能なイベントや、興行公演の誘致に向けた方策等を取りまとめ、同年9月、徳島市長との会談において、「藍場浜公園西エリア」で縣市協調により新ホール整備をすることなどの取組方針について合意しました。

「藍場浜公園西エリアにおける新ホール早期整備プラン」については、「縣市協調新ホール整備基本計画」や、「新ホール整備候補地調査業務」の調査モデルプランをベースに、「新ホール早期整備プラン意見交換会」、「県内文化団体へのヒアリング」等での意見を踏まえ、具体化を図ります。

※新ホール整備の検討経緯（まとめ）

年度	主な内容
平成5～6年度	・音楽・芸術ホール建設検討市民会議（H5.11～H6.6：5回開催）
平成8年度	・音楽・芸術ホール基本構想・基本計画策定委員会（H8.5～H9.3：各 部会別に計13回開催）
平成14年度	・音楽・芸術ホール推進市民会議（H14.9～H15.3：4回開催）
平成15～16年度	・音楽・芸術ホール推進検討市民会議（H15.11～H16.11：8回開催）、 報告書提出（ホール規模等について5案の提言）
平成17年度	・新町西地区市街地再開発事業の公共公益施設として、音楽・芸術 ホールの一体的整備を検討
平成19年度	・音楽・芸術ホール整備についての意見交換会（H19.7～H20.2：4回 開催） ・「（仮称）音楽・芸術ホール整備計画」策定（H20.3）
平成23年度	・新町西地区再開発推進組織が「新町西地区再開発構想案」を市に 提出 ・構想案を基に大ホール1500席、小ホール300席とした案 を議会に報告
平成24年度	・新町西地区市街地再開発事業都市計画決定
平成24～26年度	・新ホール管理運営計画策定のための市民会議（H25.3～H27.3：9回 開催） ・「新ホール管理運営計画」策定（H27.3）
平成27年度	・市文化センター利用中止
平成28年度	・再開発事業において整備するホールを購入しない方針表明 ・市文化センター耐震リニューアル検討 ・音楽・芸術ホール整備推進有識者会議（H28.10～11：4回開催）、「新 たなホール整備に向けての提言書」提出（H28.11）
平成28～29年度	・新ホール建設候補地検討会議（H29.3～5：5回開催）、3候補地（旧 市文化センター跡地・旧動物園跡地・徳島駅西側駐車場）で検討、「新ホー ル建設候補地選定についての意見書」提出（H29.5） ・新ホール建設候補地を「徳島駅西側駐車場」に決定（H29.5）
平成30年度	・建設候補地である「徳島駅西側駐車場」を見直し、残る2候補 地のうち、「旧文化センター跡地」で検討することを議会に報 告（H30.9） ・新ホール整備検討会議（H30.10～H31.2：5回開催） ・新ホール整備方針を議会に報告（H30.12） ・新ホール整備基本計画（素案）を議会に報告（H31.3）
平成30～ 令和元年度	・新ホール整備基本計画（素案）のパブリックコメント手続を実施 （H31.3～4） ・新ホール整備基本計画（案）を議会に報告（R1.6） ・建設予定地を巡る問題等から、計画の進捗が停止
令和2年度	・徳島市が「緊急要望書・新ホール整備の早期実現に向けて」を 県に提出（R2.9） ・県市協調未来創造検討会議（R2.10～） ・県市協調新ホール整備基本方針・策定（R2.12）

令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「設計・施工一括発注方式」による公募型プロポーザルを実施 (R3.5~9)</li> <li>・優先交渉権者と「基本協定」、「基本設計契約」を締結 (R3.11)</li> <li>・「基本設計業務」を実施 (R3.11~R4.6)</li> <li>・徳島文化芸術ホール（仮称）管理運営計画検討委員会 (R4.3~R5.1：6回開催)</li> </ul>
令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「実施設計業務」を実施 (R4.7~R5.12)</li> <li>・「徳島文化芸術ホール（仮称）管理運営計画」を策定 (R5.3)</li> </ul>
令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新ホール整備に向けた見直し検討を開始 (R5.5)</li> <li>・新ホール整備見直しに向けた「県民アンケート」を実施 (R5.8~9)</li> <li>・新ホールの建設地を変更し、「藍場浜公園西エリア」を候補地とする構想を公表 (R5.11)</li> </ul>
令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「藍場浜公園西エリア」における規模、機能等の調査結果を公表 (R6.6)</li> <li>・興行関係者等に対して実施したヒアリング結果を公表 (R6.9)</li> <li>・徳島市長との会談において、「藍場浜公園西エリア」で県市協調により新ホール整備をすることなどの取組方針に合意 (R6.9)</li> </ul>

## 2 国における文化芸術政策の状況

国においては、平成13年12月、「文化芸術振興基本法」を制定し、文化芸術の振興に関し、基本理念を定めて、国及び地方公共団体の責務を明らかにするとともに、文化芸術の振興に関する施策の基本となる事項を定め、文化芸術に関する活動を行う者の自主的な活動の促進を旨として、文化芸術の振興に関する施策の総合的な推進を図ることとしました。

同法第25条では、「国は、劇場、音楽堂等の充実を図るため、(略)施設の整備、公演等への支援、芸術家等の配置等への支援、情報の提供その他の必要な施策を講ずるものとする。」とされており、これを背景として、平成24年6月に「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」が制定されました。同法においては、我が国の劇場や音楽堂、文化ホール等に係る現状や課題を踏まえ、劇場、音楽堂等の活性化を図り、もって心豊かな国民生活及び活力ある地域社会の実現等に寄与することとされております。

一方、近年、少子高齢化・グローバル化の進展など社会の状況が著しく変化する中で、観光やまちづくり、国際交流等幅広い関連分野との連携を視野に入れた総合的な文化芸術政策の展開が、より一層求められるようになりました。

こうしたことから、成立後、一定期間が経過していた「文化芸術振興基本法」について、文化芸術の固有の意義と価値を尊重しつつ、文化芸術そのものの振興にとどまらず、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の関連分野における施策を本法の範囲に取り込むとともに、文化芸術により生み出される様々な価値を文化芸術の継承、発展及び創造に活用するよう、平成29年6月に改正が行われ、法律名も「文化芸術基本法」に変更されました。

また、「日本の文化力」は世界に誇る我が国最大の資産であることから、未来に向けて着実に維持・継承しつつ、発展・成長させ、文化に対する戦略的な投資は経済成長の起爆剤にもなり得るとの認識の下、文化芸術を核とした「成長と分配の好循環の拡大」による文化芸術振興と経済成長の実現を目指すため、文化芸術と他分野が一体となって新たな価値を創出し、創出された価値が、文化芸術の保存・継承や新たな創造等に対して効果的に再投資されることにより、自立的・持続的に発展していくメカニズムを形成することを目的として、今後5年から10年先を見据えた「文化経済戦略」が平成29年12月に策定されました。

### 3 県における文化芸術施策の展開

徳島県では、平成17年3月に制定した「徳島県文化振興条例」に基づき、文化の振興に関する基本的な方針となる「徳島県文化振興基本方針」を平成18年3月に策定し、これまでに全国初となる2度の国民文化祭を開催するなど、文化の力をまちづくりに活かす「文化立県」の観点で、地域の皆様方とともに、様々な取組みを進めて参りました。

しかしながら、人口減少の進展に伴う地域コミュニティの希薄化や担い手不足の深刻化など、地域文化を支える基盤の弱体化が懸念される一方で、人生100年時代の到来に向け、生涯にわたっての社会参加、学習機会としての芸術文化の重要性が高まりを見せるなど、地域社会における様々な課題に対応していくことが求められていることから、本県の文化芸術のさらなる振興に向けて、施策の「基本的な方向性」や、「目指すべき将来像」、「具体的な取組内容」などを盛り込んだ「徳島県文化芸術推進基本計画」を、令和元年7月に策定し、令和6年3月には、第2期計画として更新しました。

当計画では、具体的な施策として、県民が文化芸術に触れ親しみ、参加できる場を創出するため、鑑賞機会や発表機会の充実を図るとともに、文化芸術を育む場の充実に向け、新ホールの早期整備に取り組むとしております。さらに、観光、まちづくり、産業等と連携し、地域の文化資源を活かした文化と観光による経済の好循環を創出することとしており、このような取組みにより、『文化芸術の力により、持続可能で魅力的な徳島県へ』という目標の実現を目指しています。

### 4 市における文化芸術施策の展開

徳島市の新たなまちづくりの指針となる「徳島市まちづくり総合ビジョン」が平成29年3月に策定され、市の将来像である「笑顔みちる水都 とくしま」の実現に向けて、徳島らしい文化活動のさらなる振興や、特色ある地域文化の創造に取り組むための文化施策における基本的な方針を示す「徳島市文化振興ビジョン」を平成29年6月に策定しました。（令和5年2月に一部修正）

文化振興ビジョンでは、文化振興を通じて、市民や文化団体、企業、行政等が連携・協力し、ひと・まちが輝きに満ちあふれる都市を目指すため、基本理念を「文化の力で、ひと・まちが輝くとくしま」と定めるとともに、文化振興の環境づくりとして、徳島市らしい文化活動の振興を図るため、「市民の芸術文化の創造拠点」となる新ホールの整備をはじめ、市民への文化に出会う機会の提供や市民の文化活動を支援する環境づくりに取り組むこととしております。

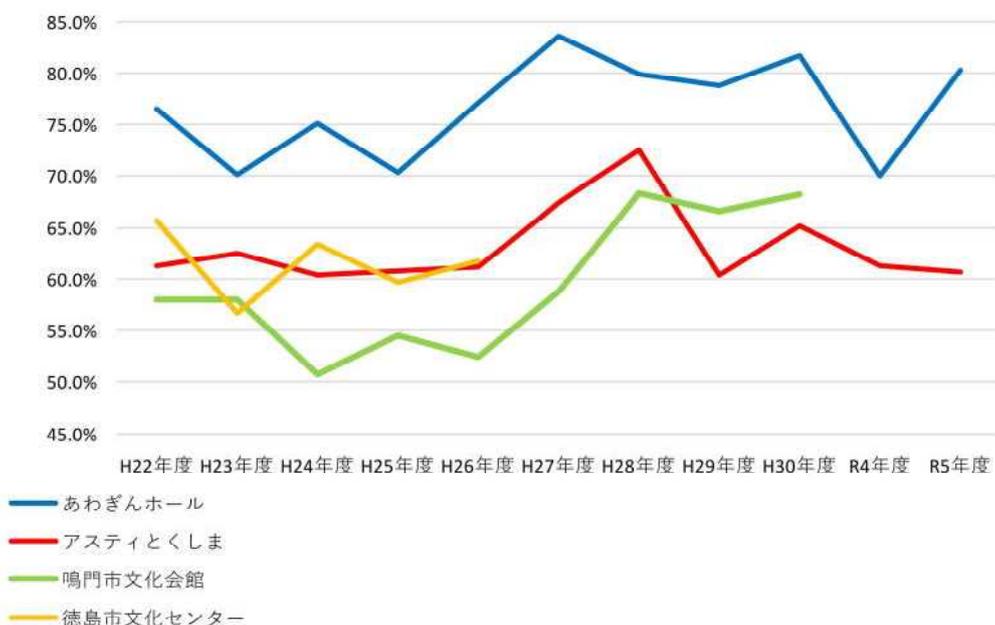
## 5 県内の主要な公立文化ホール施設の状況

### (1) ホール（主なもの）一覧

市町村	施設名称	座席数	
徳島県	あわぎんホール (徳島県郷土文化会館)	大ホール	809
		小ホール	300
	アスティとくしま (徳島県立産業観光交流センター)	多目的ホール	5,000
		ブライダルコアときわホール (徳島県立男女共同参画交流センター)	142
	徳島県立21世紀館	イベントホール	300
すだちくん森のシアター(野外劇場)		1,000	
徳島市	徳島市シビックセンター	200	
鳴門市	鳴門市文化会館 ※休館中、座席数は減少する見込み	1,600	
小松島市	小松島市ミリカホール	320	
阿南市	阿南市文化会館(夢ホール)	693	
	阿南市情報文化センター(コスモホール)	600	
吉野川市	吉野川市鴨島公民館	615	
	吉野川市アメニティセンター	486	
阿波市	アエルワ(阿波市交流防災拠点施設)(※移動席含む)	645	
美馬市	美馬市地域交流センター(ミライズ)	501	
石井町	石井町中央公民館	664	
牟岐町	海の総合文化センター	500	
美波町	美波町コミュニティホール	224	
海陽町	阿波海南文化村	422	
松茂町	松茂町総合会館	402	
北島町	北島創世ホール	330	
藍住町	藍住町総合文化ホール	633	
板野町	板野町文化の館	500	

### (2) 主要ホールの稼働率

主要ホールの稼働率（H22年度以降）



## 6 他県における公立文化ホール施設の状況

都道府県	大ホール座席数が多い主なホール施設		主な都道府県立ホール施設	
	施設名称	座席数	施設名称	座席数
北海道	札幌文化芸術劇場hitaru	2,302	北海道立道民活動センター	521
青森県	青森市文化会館	2,031	-	-
岩手県	岩手県民会館	1,991	岩手県民会館	1,991
宮城県	仙台サンプラザホール	2,710	宮城県民会館	1,670
秋田県	あきた芸術劇場	2,015	あきた芸術劇場	2,015
山形県	山形県総合文化芸術館	2,001	山形県総合文化芸術館	2,001
福島県	郡山市民文化センター	2,004	福島県文化センター	1,758
茨城県	水戸市民会館	2,000	茨城県立県民文化センター	1,514
栃木県	宇都宮市文化会館	2,000	栃木県総合文化センター	1,604
群馬県	群馬県民会館	2,221	群馬県民会館	2,221
埼玉県	ソニックシティ	2,505	彩の国さいたま芸術劇場	776
千葉県	松戸市文化会館	1,955	千葉県文化会館	1,790
東京都	東京文化会館	2,317	東京文化会館	2,317
神奈川県	神奈川県立県民ホール	2,493	神奈川県立県民ホール	2,493
新潟県	新潟市民芸術文化会館	2,000	新潟県民会館	1,730
富山県	富山市芸術文化ホール	2,196	富山県民会館	1,108
石川県	金沢歌劇座	1,919	石川県立音楽堂	1,560
福井県	フェニックス・プラザ	2,000	福井県立音楽堂	1,456
山梨県	山梨県立県民文化ホール	1,989	山梨県立県民文化ホール	1,989
長野県	長野県松本文化会館	2,000	長野県県民文化会館	1,971
岐阜県	長良川国際会議場	1,929	岐阜県県民ふれあい会館	708
静岡県	アクトシティ浜松	2,336	静岡県コンベンションアーツセンター	1,209
愛知県	名古屋国際会議場	3,012	愛知県芸術劇場	2,480
三重県	三重県総合文化センター	1,903	三重県総合文化センター	1,903
滋賀県	びわ湖ホール	1,848	びわ湖ホール	1,848
京都府	京都会館	2,005	京都府立府民ホール	560
大阪府	大阪国際会議場	2,769	大阪国際会議場	2,769
兵庫県	神戸文化ホール	2,043	兵庫県立芸術文化センター	2,001
奈良県	なら100年会館	1,720	奈良県文化会館	1,313
和歌山県	和歌山県民文化会館	2,000	和歌山県民文化会館	2,000
鳥取県	米子コンベンションセンター	2,004	鳥取県立県民文化会館	2,000
島根県	島根県民会館	1,537	島根県民会館	1,537
岡山県	岡山シンフォニーホール	2,001	岡山県天神山文化プラザ	270
広島県	ふくやま芸術文化ホール	2,003	広島県立文化芸術ホール	1,861
山口県	KDDI維新ホール	2,000	山口県民文化ホールいわくに	1,205
徳島県	徳島県郷土文化会館	809	徳島県郷土文化会館	809
香川県	香川県県民ホール	2,001	香川県県民ホール	2,001
愛媛県	愛媛県県民文化会館	2,725	愛媛県県民文化会館	2,725
高知県	高知県立県民文化ホール	1,507	高知県立県民文化ホール	1,507
福岡県	福岡県国際文化情報センター	1,874	福岡県国際文化情報センター	1,874
佐賀県	佐賀市文化会館	1,811	-	-
長崎県	長崎ブリックホール	2,002	アルカスさせぼ	2,000
熊本県	熊本城ホール	2,304	熊本県立劇場	1,810
大分県	大分県立総合文化センター	1,966	大分県立総合文化センター	1,966
宮崎県	宮崎市民文化ホール	1,882	宮崎県立芸術劇場	1,818
鹿児島県	鹿児島市民文化ホール	1,998	鹿児島県文化センター	1,502
沖縄県	沖縄コンベンション劇場	1,720	沖縄コンベンション劇場	1,720

※R6.10現在、公益社団法人全国公立文化施設協会データベース・各施設HPより（野外劇場、体育兼用施設等除く）

## 7 これまでの意見

### (1) 県市協調未来創造検討会議（新ホール部会）における委員意見

#### ①開催時期

令和2年10月～12月

#### ②主な意見

##### 【新ホール整備全体】

- ・新ホールがやっと動き出した。早急にスピード感を持って進めて頂きたい。
- ・新ホールを徳島の魅力度を上げる素晴らしい文化施設、県民市民の誇りとなる施設に。
- ・県市協調で新しいホールを造るのは、全国的に見てもかなりチャレンジングな事例。
- ・素晴らしいホールを実現し、先駆的な事例として見本になるような整備・運営を。
- ・機運醸成が重要。県民・市民が一丸となって、新ホールを造っていくべき。
- ・コロナは終息すると思うが、施設はゆとりのある方が役立つ。
- ・映像を発信できれば興行として大きい。新しい時代の映像を通した舞台を。
- ・舞台を使う立場だけではなく、裏方スタッフの動線や使い勝手について話を聞きたい。
- ・ホール施設は、夜や週末だけ賑わうのではなく、平日の昼間にどれだけ人が集まるかが重要。
- ・新ホールで素晴らしいものを観ることも大事だが、県民が活動できる場所を確保することも踏まえ、全体計画を考えた方がいい。慎重に検討をしてほしい。
- ・ホールの社会的な役割、ミッションを設定して、その効果を測定することが求められている。
- ・県の施策としてどれだけ新しい館にするのか、文化振興のレベルを持って行くのか、落としどころを見つけながら考える必要がある。
- ・器を作ってからでは使えるものにならない。何をやっていくかを固めるべき。
- ・市町村と連携し、県全域のホール事業、文化を底上げする視点が必要。
- ・高校生、中学生がここに来て見る機会を多くする。若い人たちが観たい形で提供することが大事。
- ・「未来志向」として、来るのは年配の人ばかりではなく、これからの若い人も。
- ・津波の浸水区域であるため、防災面での工夫も必要。

##### 【管理運営】

- ・県民市民が文化事業を支えるような仕組みも必要ではないか。
- ・せっかくホールを作るので、徳島が発信する新しい作品づくりなど創造型事業に取り組みれば他県からも来るのではないか。
- ・世界に発信できる新しい時代でもあるので、時代に応じた新しい発想が必要。
- ・運営面では、営業的なことも考えて専念してくれる人が必要。
- ・大ホールの1階だけの使用料を半額にするとか、大胆な値段設定を行えば、郷土文化会館と同じように使えるのではないか。
- ・県民の使用料を若干安くするとか、工夫の方法はある。

- ・文化や芸術に係る事業を支援する「アーツカウンシル」という組織の取組みが全国的に広がってきており、指定管理とともにそういった組織が関われば良いのでは。
- ・阿波おどり、阿波人形浄瑠璃など、伝統芸能に加え、新しい徳島の文化を創造するような取り組みが必要。
- ・阿波おどり、阿波人形浄瑠璃は、観光ツールでもある。観光の視点を取り入れるべき。
- ・「子どもから高齢者」、さらには「外国人」など、幅広い方々が参加できる文化活動のプログラムを、新ホールを中心に開催してはどうか。
- ・人材育成について、プレイヤーとその周りで支える人をあわせた人材育成が必要。
- ・専門家、芸術監督、プロデューサーを配置しなければ、なかなか進んでいかないのではないか。

#### 【施設の規模・機能】

- ・オンラインを活用して世界と繋がるホールに。
- ・デジタルアートや最新の照明、音響、舞台で最先端の音楽や舞台に対応できるホールに。
- ・観客席を広く、2000席が1800席になっても、良いシートにしてほしい。
- ・屋外に設けられたLED画面でホール外でも文化を楽しむことが出来るような空間を。
- ・徳島を特徴づけるのは阿波おどり。最高の舞台で踊れるものを。花道やランウェイのような出入りがあれば、阿波おどりや歌舞伎で使える。
- ・ピロティも単なる空間ではなく、芸術品の展示とか映像、eスポーツもできるなど工夫すれば、単にコストがかかるだけではなく、活性化の拠点になる。
- ・舞台奥にスペースがあれば特色が出るのでは。
- ・地元団体が使うには2000席規模は大きすぎる。
- ・コンサートホールとしては、1800席が理想。
- ・有名アーティストを呼んだり、全国大会や学会を開催するためには、2000席規模に加えて、リハーサル室や小ホールがないと成り立たない。
- ・2000席の稼働は難しいと思うが、2000席なければできないこともたくさんある。
- ・中途半端な小ホールではなく、音響的にも充実した小ホールがほしい。
- ・日本舞踊や歌舞伎には必ず迫りが必要となる。
- ・徳島らしく、小ホールには人形浄瑠璃の太夫座が設置できるように。
- ・文化施設というのは、2000席のホールだけで機能するものではない。
- ・高層化すると3階、4階席は急な角度になるので、2000席にこだわらない方が良い。
- ・客席を何層かにすれば、普段は1階のみを使用し、中ホール的に使うことができる。
- ・小ホールについては、郷土文化会館の今後と並行して議論してほしい。
- ・車椅子の方が雨に濡れずに入館できるようにしてもらいたい。
- ・津波浸水を鑑みれば、電源装置は高い位置に設置すべき。
- ・トイレについて、公演の休憩時間は、特に女性用が混み合うことから、できるだけ多く確保を。

## 【にぎわい・まちづくり】

- ・ホールが話題となって、全国からも人が集まるホールをお願いしたい。
- ・映像、舞台だけではなく、街のにぎわいづくりを。
- ・将来的に徳島中央公園とも繋げて、駅からの導線や駐車場整備をはじめ、中心市街地のグランドデザインができるように。
- ・新ホール、青少年センターが新しい機能を持てば、若い人たちが徳島に残って楽しみ、県外の人を迎えるなど、大きな活性化に繋がる可能性。
- ・この施設を建てる上で、線路を跨いだりとかできないか。市役所と繋げられないか。
- ・後々徳島駅と繋がっていくなど複合的に考えたら、ランドマークに近づく。
- ・中央公民館から寺島公園、中央警察署跡地まで含めて、グランドデザインを。
- ・徳島中央公園と一体化できる使い方も考えていただければ。
- ・チケットを持ったお客さんが開場前にゆっくり並べる場所が必要。
- ・ホールから鷲の門まで繋げて、広場が野外劇場になるような視点も。
- ・ひょうたん島クルーズを利用して、川からホールにアクセスする動線はどうか。
- ・ホール単体というよりも、徳島の楽しい場所というイメージでまちづくりを。
- ・ホールがなくてもいいのではという意見の人も少なくない。こういう人達にも、行ってみたいと思わせるものを取り入れてほしい。
- ・アクセスやホールまでの景観など、街全体としての考えをもう少し持ってもいいのではないかな。

## (2) プロモーター等ヒアリングにおける意見

### ①ヒアリング概要

#### ○ヒアリング内容

1500席規模のホールで開催可能なイベントや、魅力的な「興行公演」誘致に向けた方策等を聞き取り

#### ○ヒアリング時期

令和6年7月～8月

#### ○ヒアリング先

興行関係者（5団体）、1500席規模の公共ホール（7施設）  
地域の文化政策・公共ホール運営等の専門家（3名）

### ②主な意見

#### 【「興行公演」等を取り巻く状況】

- ・近年、エンタテインメント市場は拡大傾向にあるが、地方では公演回数が増加していない。
- ・ホール規模に正解があるわけではなく、興行公演は、集客とコストによるところが大きい。
- ・地方の2000席規模のホールで、満席になる公演は多いとは言えない。
- ・座席数を1500席にしたとしても、大きな影響は出てこないと思うが、例えば、出演料が高い有名オーケストラを招聘した時に、1枚あたりのチケット価格が高くなるケースが出てくるかもしれない。

- ・作品によっても異なるが、1500席程度の客席を備えていたら問題ないかと思う。
- ・ホールが、公演利用だけの閉鎖的な空間ではなく、地域に開かれたものとして、市民がどのように関わることができるのか考えることが必要。
- ・興行公演による鑑賞機会の提供も大切であるが、それはホールが持つ役割のひとつであり、公共ホールとして、より広い観点からの取組が求められている。
- ・ホール内の事業だけではなく、アウトリーチなどを通じて、地域の課題に向き合っていくことも必要。そのために、コーディネーター的な役割を担う人材がホールに必要な。

#### 【「興行公演」等誘致に向けた取組】

- ・徳島は、地域の魅力、大阪方面からのアクセス、ホテル環境などの総合力を高めることができれば、魅力的な興行を多く誘致できる可能性がある。
- ・利便性の高い搬入機能を確保できれば、施設の強みになる。
- ・搬入口の使い勝手や、遮音性能など、ハード面の充実に加え、早期の申込開始時期の設定など、ホールの利便性を高めておくことが必要。
- ・広い荷下しスペースに加え、待機のトラックが横付けできるスペースがあるほうがいい。
- ・舞台上には、幕や舞台セットを仮設で吊り下げることができる美術バトンが多数必要。
- ・ホリゾン幕の裏に、出演者が上手下手を行き来することができる動線が必要。
- ・開演前や幕間にトイレを待つ観客で混雑が生まれることが多いため、例えば、入口と出口を分けるなど、トイレに混雑が起きにくくする工夫が必要。
- ・出演者の幅を広げるためには、ホール側にもアーティストを見る目利き能力が必要。
- ・興行関係者等との共催で行う事業について、ホール側では、早期予約や広報協力、チケットの窓口取扱いなどの対応をしている。
- ・スタッフやホールのネットワークを活用することで、有名公演の誘致につながっている。

### (3) 文化団体等ヒアリングにおける意見

#### ①ヒアリング概要

- ヒアリング内容  
藍場浜公園西エリアでの新ホール整備に対する意見を聞き取り
- ヒアリング時期  
令和6年10月～11月
- ヒアリング先  
県内主要文化団体（7団体）

#### ②主な意見

##### 【新ホール整備全般】

- ・一日も早い整備を願う。
- ・会員の高齢化が進行しており、一日も早い開館を心待ちにしている。
- ・もう何年もホールが迷走しているので、今度こそ県市が協力して整備してほしい。

- ・藍場浜公園西エリアは敷地が狭いように見えるが、本当に必要な機能が置けるのか心配。
- ・気がついたらもう設計が終わっていることがないよう、県内の文化団体や舞台技術関係者の意見もしっかり聞いてほしい。
- ・裏方の意見も聞きながら、使い勝手が良いホールを整備してほしい。
- ・プロの活動だけでなく、県民の活動にもしっかり配慮し、多様性が担保される文化振興の拠点になってほしい。
- ・高校生がここで舞台に立ちたいと思えるようなホールにしてほしい。
- ・あわぎんホールの今後がどのようになるのか心配。新ホールができたから、あわぎんホールが不要ということにはなってほしくない。
- ・地盤の状況、地下階の湿気の手配もあり、川の隣に建築物を建てることについて不安の声が多い。
- ・今、公園を実際に利用している人への配慮も忘れないでほしい。

#### 【大ホール（客席・ホワイエ等）】

- ・大ホールは1500席あれば十分。3層であれば1階席部分だけ利用するだろう。
- ・舞台上の演者を上から見下ろされたくないで、1階席部分だけ利用すると思う。
- ・1階席のみを利用する場合は、なるべく小さな負担で運営ができるように配慮してほしい。
- ・稼働率を上げていくためには、様々な用途に対応できるようにしておくほうがいいが、大規模大会や学会等を見据えれば、大ホールは1800席以上がベスト。
- ・すべてのジャンルが同じというわけではないかもしれないが、1000席以上の座席数が確保できていれば全国大会開催の可能性が出てくる。
- ・客席の床について、傾斜のきつい階段にはせず、できる限りフラットにしてほしい。
- ・台詞が明瞭に聞こえるよう、残響が短い演目にも対応した音響にしてほしい。
- ・客席の壁や舞台は演劇などの演目にも配慮をした色合いにしてほしい。
- ・親子室を確保するなど、小さな子ども連れの親子が利用できるように配慮すべき。
- ・公演の幕間などで一斉に殺到するので、特に女性用トイレが足りないということにならないようにしてほしい。

#### 【大ホール（舞台・楽屋等）】

- ・舞台の広さは、人数の多いオーケストラが来てものれるような規模にしてほしい。
- ・舞台上のバトンは多い方がいい。
- ・できれば、舞台に船底や太夫台などの機能があればいいが、ある程度のバトン数と舞台の奥行きがあれば問題ない。
- ・バトンは舞台奥行きにあった数をしっかり確保してほしい。
- ・照明機器等を持ち込みする余裕がないため、基本的な機器はホール備付けにしてほしい。
- ・県内団体は照明機器等を自前で全て用意することは難しいため、ある程度はホールに備えてほしい。
- ・本番前の仕込み時に、照明バトンを上げ下ろしするのは大変な場合があるので、フライブリッジを設置してほしい。
- ・シーリングライトからの灯りが Horizont 幕までしっかり当たるように調整してほしい。
- ・Horizont 幕後ろに通路を設け、リノリウムが張れるようにしてほしい。

- ・オペラカーテンを設置してほしい。
- ・緞帳は個性的なものより、画が入らない絞り緞帳などの方が使いやすいのではないかな。
- ・十分な長さや幅のある花道を設けてほしい。できれば本花道にして、徳島の誇りとなるホールになってほしい。
- ・花道やオーケストラピットといった機能は、場所が変わっても維持してほしい。
- ・小迫り、大迫りは必須。あわぎんホールは迫りの設置位置が中途半端なので、新ホールでは注意してほしい。
- ・迫りの乗込口がある奈落まで、エレベーターで移動できるようにしてほしい。
- ・ある程度的人数が収容できる大楽屋がいくつかあるといい。
- ・楽屋は10部屋程度必要。うち3室以上は10畳ほどの大部屋があるといい。和室があればいいが、畳を仮設で敷く形でもいい。
- ・楽屋にはメイクを落とすための水回り、照明付きの化粧前、のれん掛けが必須。
- ・重たい衣装を着て移動するのは大変なので、楽屋はできる限り、舞台近くに置くべき。
- ・楽屋口は衣装や楽器を持った方が円滑に出入りできるよう配慮すべき。
- ・金屏風や毛氈といった舞台備品を充実してほしい。
- ・配信ができる環境整備も必要。
- ・大ホールとリハーサルを行う部屋の間は、雨に濡れないように室内移動できるようにしておくべき。
- ・リハーサル室は必要なので、モデルプランに入っていてほっとしている。
- ・可能であれば、リハーサル室は単独でも貸せるような仕組みを作れるといい。
- ・リハーサル室には、鏡とバーは付けてほしい。
- ・搬入ルートの設定は慎重に行うべき。
- ・搬入ヤードと舞台の間には遮音のための扉を適切に設けてほしい。

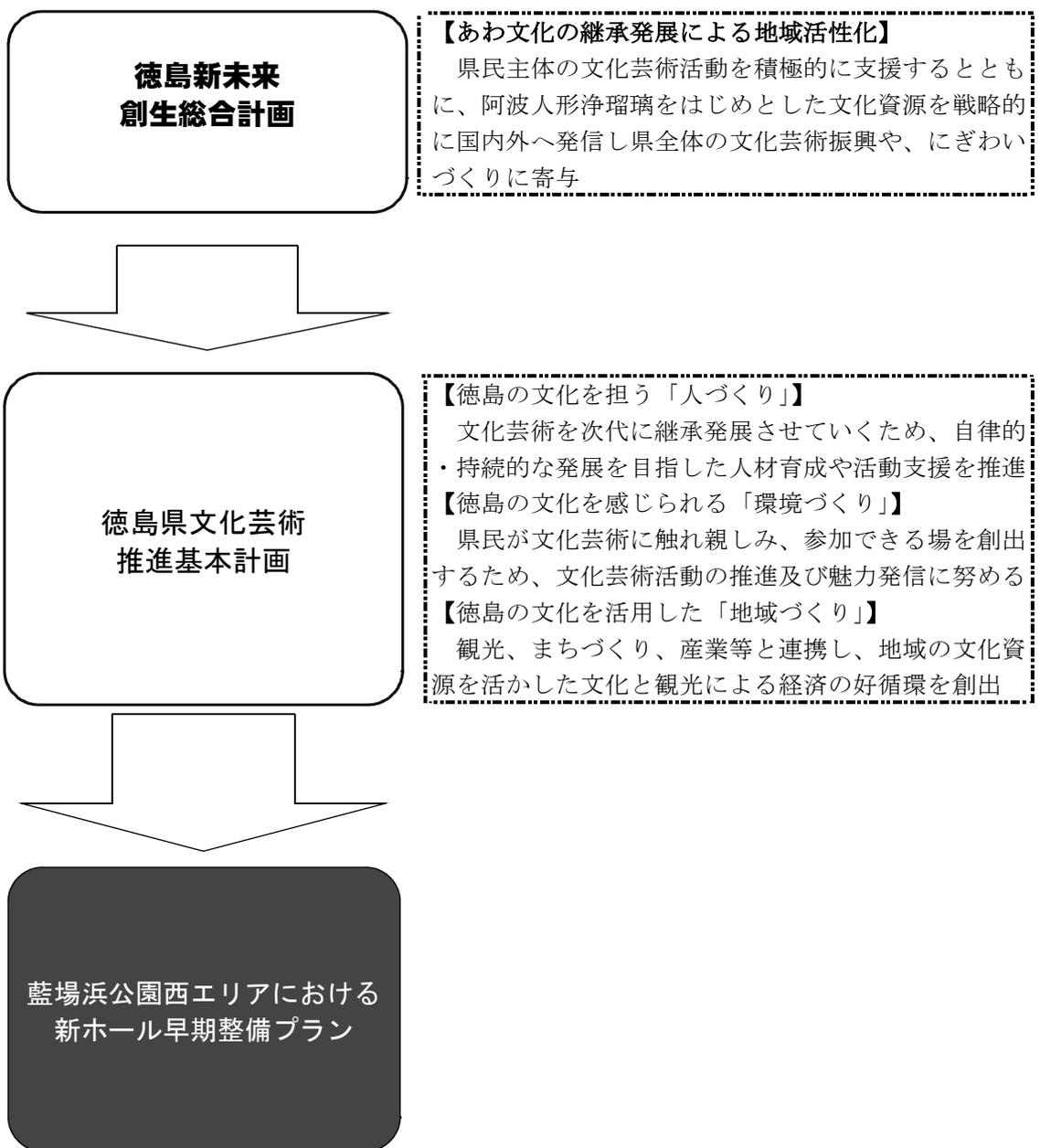
#### 【大ホール以外】

- ・多目的スタジオは県内に同規模の施設もあるので、よくある造りよりは、新たな文化創造に向け、挑戦的なことができる攻めた造りにしてもいいのではないかな。
- ・東京で作られた作品の巡回公演が多くなってしまいがちだが、逆に地方で作ったコンテンツを東京に持って行くような流れも必要ではないかな。そのためには活動室機能も重要。
- ・あわぎんホールの和室は、隣への音漏れの心配があり、他の利用団体との調整が必要になる場合がある。活動室間の防音にも配慮すべき。
- ・エントランスについて、新ホールだけではなく、あわぎんホールの顔となることも見込んで配置をすべき。
- ・ロビー回りのギャラリーは、藍場浜に変わっても引き継いでほしい。
- ・ギャラリーを新ホールの中に入れてほしいとの意見も上がっている。
- ・壁ギャラリーでもいいので、高さが確保され、スポットライトが付いたギャラリースペースを設けてほしい。
- ・あわぎんホールの展示室は、什器の老朽化が顕著なうえ、梁が中途半端な位置にあったり、カーテン越しに光が入るなど、決して理想的な環境とは言えない。
- ・あわぎんホールでは駐車場が少なく困っているので、駐車場はきちんと確保してほしい。
- ・観客の駐車場はなるべく多くの台数を確保してほしい。
- ・出演者や裏方スタッフに向けた主催者駐車場を充実してほしい。

## 第2 基本的事項

### 1 県計画等との関連性

- ・「新ホール」の整備・運営は、文化芸術分野のみならず、にぎわいづくりや観光誘客など、県政全般に関連する重要施策であることから、県が進める政策の基本的な方向性をまとめた最上位の総合計画である「徳島新未来創生総合計画」をはじめ、各計画等において、「新ホール」整備・運営関係施策をしっかりと位置づけて、取り組みを進めます。



## 2 新ホールの位置づけ

- ・新ホール整備の効果を、県都はもとより、県下全域・広範囲に拡大させるため、「県立施設」として、「第3 事業展開」に掲げる施策を展開します。

## 3 縣市協調・役割分担

- ・今後も迅速かつ確実に新ホール整備を進めていくには、縣市協調体制の堅持は必要不可欠であり、県と市が担うべき役割に応じて、各施策を推進していくことが重要であります。

## 4 基本目標（案）

- ・新ホールは、徳島県が誇る多彩な文化芸術の魅力を継承し、一層磨きあげるとともに、県内外に向けた文化芸術の創造発信をする場として、また、人と文化芸術をつなぎ、地域の発展を支える「新しい広場」としての役割を担います。

**「文化芸術の振興、創造発信およびにぎわい創出の拠点」**

## 5 施設使命

- ・前項で掲げた「基本目標」に基づき、次の「使命」を果たします。
  - ① 新たな文化芸術を創造し、魅力を発信する
  - ② 徳島の文化芸術の未来を担う人材を育てる
  - ③ 県民に優れた文化芸術を鑑賞する機会を提供する
  - ④ 「藍場浜公園」との親和性を図り、県都のにぎわいを創出する

## 6 建設用地

### (1) 建設用地全般

- ・水都とくしまの象徴である新町川沿いにあり、徳島中心部のにぎわいづくりに大きく寄与することが期待できる徳島駅周辺に位置し、既に県有地で早期の整備が可能な「藍場浜公園西エリア」（徳島市藍場町2丁目4番地ほか）を建設予定地とします。
- ・安定地盤である支持層への地下杭設置や、大ホール舞台下に奈落空間等が必要となることから、既存の「藍場浜公園地下駐車場」の一部を解体して、新ホール整備敷地として利用します。

### (2) 交通アクセス

- ・「鉄道」、「バス」、「自家用車」、「徒歩・自転車」など様々な手段による交通アクセスに配慮し、来館者の利便性を図ります。
- ・「自家用車」でのアクセス集中による周辺道路の渋滞への影響を最小限とするよう留意します。

## 第3 事業展開

### 1 事業展開の方向性

- ・当計画の「基本目標」や「施設の使命」、さらに「徳島未来創生総合計画」、「徳島県文化芸術推進基本計画」等を踏まえ、事業を展開します。
- ・県民による日頃の練習の成果発表公演やプロモーター等による興行コンサートなど、多様な主体の活動に対して施設を貸し出す「貸館事業」に加え、徳島の人々が育み、磨き上げてきた文化の特徴を活かしつつ、県民の皆様とともに、これまでの概念にとらわれない新しい文化芸術を創造・発信することにより、県都の活性化と県全体のにぎわいを創出することを目指し、次の事業を展開します。

#### ①文化創造、魅力発信事業

施設の使命：新たな文化芸術を創造し、魅力を発信する

- 例) ホールプロデュース作品の制作  
県民参加型公演作品の制作

#### ②次世代人材育成事業

施設の使命：徳島の文化芸術の未来を担う人材を育てる

- 例) 教育施設や福祉施設等へのアウトリーチ  
文化芸術分野における体験型ワークショップ

#### ③鑑賞機会提供事業

施設の使命：県民に優れた文化芸術を鑑賞する機会を提供する

- 例) 幅広いジャンルにおける質の高い公演  
親子向けコンサート、上演作品の理解を深める解説付き公演

#### ④にぎわい創出事業

施設の使命：「藍場浜公園」との親和性を図り、県都のにぎわいを創出する

- 例) エントランス空間を活用したロビーコンサート  
周辺の公園で行われるイベントとの連携

### 2 新ホール整備までの事業展開

- ・新ホールが、開館後その機能を最大限に発揮して本県の文化芸術活動の発信拠点となり、県都のにぎわいを創出する役割を果たしていくために、これまで進めてきた文化振興の取組みを基本としつつ、新ホールの完成を見据えて事業を展開し、機運の醸成を図っていくこととします。

### 3 県内文化ホール施設等との連携

#### (1) あわぎんホールとの連携

- ・あわぎんホールは、大ホール（809席）に加え、小ホール（リハーサル室）や大小の会議室、展示室、和室等を備え、年間35～40万人前後の県民に利用されており、近年、大ホールの利用率が80%前後で推移するなど、利用ニーズが高い状況です。
- ・竣工後52年を経過し、老朽化が進んでおりますが、平成17～18年度には耐震改修及び各設備の更新・修繕を行い、令和元年度には、外壁の改修を実施するなど、現時点では安全性に特段の問題はなく、「中長期予防保全計画」を策定し、築65年を使用目標として、施設の長寿命化に取り組んでいます。
- ・あわぎんホールが築65年を使用目標とする中で、新ホールとしては、1500席規模の客席や、機能性の高い舞台を備える「大ホール」など、新ホールが持つ施設特性を活かし、あわぎんホールとの連携を行いながら、基本目標、施設使命を達成できるよう事業展開してまいります

#### 【あわぎんホールの施設概要】

開館	昭和46年9月
施設規模	14,386㎡（地上5階・地下1階・塔屋2階）
施設構成	大ホール（809席）、小ホール（最大200席） 大会議室（最大500席）、会議室（10室）、和室・茶室 大展示室、展示室（5室）特別展示室、木偶資料館

#### (2) その他県内文化ホール施設との連携

- ・新ホールが県内の文化振興・創造発信、にぎわいづくりの拠点としての役割を果たしていくため、県有施設である「アスティとくしま」や「県青少年センター」、「徳島県文化の森総合公園」はもとより、県内各地にある市町村のホール施設と、それぞれの施設特性を鑑みながら、連携を図っていきます。

例) 大規模文化イベント・学会等でのサテライト会場としての利用  
市町村文化ホールとの共同によるアウトリーチの実施

## 第4 管理運営

### 1 管理運営の基本的事項

- ・基本目標、施設使命の達成に向け、次のとおりの管理運営を目指します。詳細な内容については、今後検討を行う「管理運営プラン」の中で取りまとめます。

- ① 施設や事業の魅力を誰もが享受できる機会を提供する
- ② 文化芸術の振興、創造発信拠点として、ノウハウ、人材等を効果的に活用する
- ③ 未来に向けた持続可能な施設運営を実現する

### 2 管理運営組織

- ・施設使命に基づいた事業の展開や、高機能な施設、設備を安全に管理していくため、運営組織には高い専門性が求められます。
- ・専門知識を有する人材を確保し、中長期的な取組みに向けた人材育成が可能な環境を整えることなど、管理運営の目指す方向性を具現化できる組織体制を視野に入れます。

### 3 運営手法

- ・「指定管理者制度」を採用することを念頭に、運営手法を検討します。

### 4 運営経費

- ・収入においては、入場料等の「事業収入」、施設貸出によって得られる「利用料金収入」のほか、国や公的な機関からの助成金等の「外部資金収入」や、新ホールの活動に賛同する企業や個人からの「寄付」、「協賛金」、設置者からの「指定管理料」などを想定します。
- ・支出においては、主催事業等の実施に伴う「事業費」、施設のスタッフの「人件費」、清掃、警備、設備の保守点検などの「維持管理費」を想定します。

## 第5 施設整備計画

### 1 施設整備の基本的事項

#### (1) 文化芸術の振興、創造発信の拠点

- ・良質な音響やサイトラインを備えることをはじめ、舞台や搬入など、文化ホール施設が本来持つべき役割の発揮に向けて必要な機能の整備を重視します。
- ・徳島を代表する県立のホール施設として、オーケストラピットや花道など、高い機能性を備え、また、ホールで行われる演目や舞台設備のトレンドが変遷することやメンテナンスのしやすさなどもあらかじめ見据え、中長期的な観点を持って施設整備を進めます。

#### (2) 県都のにぎわいの拠点

- ・「藍場浜公園西エリア」については、眉山から徳島駅にかけて、東西・南北に人が行き交う徳島市のにぎわいの中心にあり、藍場浜公園、新町川などの周辺景観との一体性を図りながら、整備を進めます。
- ・大ホール、リハーサル室、楽屋、多目的スタジオ、活動室などの各施設を適切に配置し、「鑑賞する人」、「公演する人」、「活動する人」、「くつろぎに来る人」など、様々な用途で来館される方々に配慮した動線とします。

### 2 施設の構成（エリア）と機能

#### (1) 大ホールエリア

客席	<ul style="list-style-type: none"><li>・客席は「1,500席程度」(車椅子席含む)を下限とする。</li><li>・客席後方などのスペースを利用し、可能な範囲で、「立見席・仮設席」を設けることができる計画とする。</li><li>・児童が保護者とともに鑑賞することができる「多目的室(親子室)」を設ける。</li><li>・舞台との親和性の高いコンパクトな客席空間とするため、「多層式の客席空間」とし、舞台に向けた「良好なサイトライン」を確保する。</li><li>・十分な遮音性能と静音性能を備えた、「高品質で豊かな響きを実現できる音響空間」とする。</li><li>・客席の内装は、舞台を鑑賞するのに相応しい色調や素材とする。</li><li>・ゆったりと鑑賞することができるよう、座席幅は「520mm以上」、客席前後間隔は「950mm以上」とする。</li><li>・「オーケストラピット」、「仮設花道」を設ける。</li></ul>
舞台	<ul style="list-style-type: none"><li>・主舞台の規模は、間口が幅「18m程度」、奥行きが「18m程度」、高さが「9～12m程度で可変」できる構造とする。</li><li>・主舞台の上手・下手に、バランス良く「袖舞台」を確保する。</li><li>・幅広い主体による、多彩なジャンルの演目の公演に対応できる舞台設備(照明、音響及び映像)を備え、機器の持ち込みにも対応した仮設電源、電源容量を確保する。</li><li>・「音響反射板」、「照明バトン(フライブリッジ含む)」、「幕類(緞帳・オペラカーテン・引割幕、袖幕、 Horizont幕等)」を適切に設ける。</li></ul>

<p><b>舞台</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舞台の奥行きに応じた適正な数の「吊物バトン」を確保する。</li> <li>・舞台照明と舞台音響の「調整室」は主舞台を見渡せる客席後方等に配置するとともに、移動卓での操作も行うことができる計画とする。</li> <li>・主舞台の下部に「奈落」、舞台中央部に「小迫り・大迫り」を設置する。</li> <li>・舞台に近接して、楽器を常時、適切な温度、湿度で保管できる「楽器庫」や舞台備品や大道具を収納するための倉庫・スペース等を設置する。</li> </ul>
<p><b>楽屋</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽屋は、大・中・小のサイズバリエーションを持たせ、全体で、「80～100人程度」の収容人数を確保する。また、制作スタッフや公演付き舞台技術スタッフの控室を設ける。</li> <li>・楽屋利用者のトイレ、シャワー室、アーティストラウンジ、給湯室、洗濯室等を設ける。</li> <li>・楽屋に近接した位置に「リハーサル室」を設け、可能な限り、主舞台のアクティグエリアの広さに近い面積、形状とする。また、練習に必要な姿見・バレエバー等を設ける。</li> </ul>
<p><b>ホワイエ</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各階の客席数に応じたホール利用者トイレを設ける。特に女性の利用者が多いことに配慮した数と動線設定とする。</li> <li>・主催者が作業、休憩ができる主催者控室と客席案内係の控室をホワイエ周辺に設置する。</li> </ul>
<p><b>搬出入</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大型の催物にも対応するため、「11tトラック2台」が同時に雨天でも支障なく荷下ろし可能な搬入口を確保する。</li> <li>・搬入口から舞台までは、可能な限り、フラットなレベルで大道具等を移動できる動線を確保する。</li> <li>・大型の興行公演や全国大会等の催し等を見据え、あわぎんホール側の搬出入路との共用を図り、大型トラックや主催者関係者等の円滑な動線を確保する。</li> </ul>

※「小ホールエリア」は削除。

## (2) 文化創造エリア

<p><b>多目的 スタジオ</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な県民の活動のみならず、小規模な発表会や鑑賞事業、集会・大会など、多目的な利用を見据えた「機能性が高いスタジオ」を設置する。</li> <li>・大規模イベント利用時における、出演者の楽屋利用や主催者スタッフの控室利用などの使い方も想定した動線計画を設ける。</li> </ul>
<p><b>活動室</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い県民の活動として利用できる活動室（会議利用も可）を「4室以上」設ける。</li> </ul>

### (3) 交流・にぎわい創出エリア

エントランス	・徳島駅方面や周辺の公園利用者など、幅広い方がアクセスしやすい配置とし、各機能諸室との円滑な動線設定を確保する。
交流ロビー	・ホールやスタジオでの鑑賞や活動を目的としない方も気軽に訪れ、ゆったりと過ごせるスペースとする。

### (4) 管理業務エリア

管理事務室	・来館者を認識しやすい場所とし、各機能諸室との円滑な動線を確保する。
外構等	・敷地内に主催者駐車場や身体障がい者駐車場等を適切に配置する。

## ■ 3 施設整備における留意事項

(1) 施設内の各種設備（電気設備、空気調和設備、給排水設備など）

(2) あわぎんホールが隣接する敷地への整備

(3) 藍場浜公園との親和性

(4) ライフサイクルコストへの配慮

(5) ユニバーサルデザインへの配慮

(6) 健康、環境、防災等への配慮



## 5 概算面積

各エリアは次のとおりとし、エリア全体として、「11,000～12,000㎡程度」の延床面積を想定します。

区分（主なもの）		エリア構成
大ホールエリア	客席	客席、オーケストラピット、多目的室（親子室）等
	ホワイエ	ホワイエ、主催者控室、トイレ等
	舞台	舞台、照明・音響調整室、舞台機構制御盤室 楽器庫、大道具庫・備品庫、搬入ヤード等
	リハーサル室	リハーサル室
	楽屋	大・中・小楽屋、シャワールーム、トイレ等
文化創造エリア	多目的スタジオ	多目的スタジオ、控室、トイレ等
	活動室	中・小練習室、備品庫等
交流・にぎわい 創出エリア	エントランス ・交流ロビー	エントランス、交流ロビー等
管理業務エリア	運営管理	管理事務室、会議室、控室、備品庫等
	共用部	通路、機械室等

## 6 整備手法

- ・近年、整備された類似施設においては、民間企業の優れた技術の活用により、設計・施工の品質を確保しつつ、合理性・効率性を図っていくため、「設計・施工一括発注方式」や、「リース方式」、「PFI方式」などを採用した事例が認められます。
- ・各方式のメリット、デメリットも踏まえ、新ホールの整備手法を決定します。

## 7 整備費

## 8 整備スケジュール